

香椎原病院主催、福岡東在宅ケアネットワーク・東区医師会・東区保健福祉センター共催
平成28年度 第1回（通算第11回）症例検討会

*今回は、従来の病院の会場を利用させてもらう検討会から、病院主催の検討会に変更した最初の症例検討会であった。とりわけ在宅医療に対する病院職員の意識改革を促進するものとして、また地域と病院との協働に焦点を合わせた点が従来と違い、画期的であった。

テーマ：「多職種連携による在宅療養支援」

日時：28年6月30日（木） 場所：東区保健福祉センター 1階 講堂

症例：主介護者である妻や本人の意見を尊重し、約3年に渡るリハビリを経て自宅退院への支援を行ったケース

上記1事例をグループワークなしの全体検討会とした。

事例提供病院関係者50名とネットワーク会員からは1事業1名と人数制限での開催となり、最終118名の出席となった。

（発表概要）

1. 症例発表：演者（香椎原病院：リハビリスタッフ）

関係事業所関係者：居宅支援事業所・訪問診療・訪問リハビリ・訪問看護
デイサービス・ショートステイ

発表終了後、関係事業所からそれぞれコメントをいただく

2. 質疑応答：在宅への移行がうまくいったケースにて、数名の質疑あり。

3. 幸せマップの紹介及び質疑応答

紹介者：香椎原病院：田中洋輔先生

幸せマップによる香椎原病院での取り組みを事例交えて紹介される。

（資料参照）

4. コメント：あおばクリニック 伊藤大樹先生

今回は退院時の多職種の連携を、患者家族が希望する退院後の目標を在宅スタッフと病院スタッフとの間で共有し、さらに病院スタッフが退院後フォローも行える体制構築を目指した点で、他病院にも大変参考になる検討会になった。これが、**Transitional Care Model (TCM)**・地域完結型ケアモデルになるものと評価したい。

療養の場は状況に応じて変わる。在宅でケアを実施していたが再入院する場合があるが、それは必ずしも失敗ではないと捉えることも必要である。

(実行委員・世話人より)

- ・ 関係者との事前打ち合わせを行った。(内容把握がしやすくなる・報告の一貫性が持てた)
- ・ グループワーク形式ではなかったため、意見が出しにくかったようだったが、コメントで今回のポイントをまとめてもらうことができた。
- ・ OT 職への理解促進に一定の効果があった。パンフレットや DVD などがあると良いと思う。

(香椎原病院より)

- ・ 本事例は看護師の頑張りがおおきかったので、看護師から話をする機会があったら良かった。
- ・ 本事例報告者は発表を通して自信に繋がった。

など意見があった。アンケート集計や、参加者の感想は別紙資料御参照ください。